

細胞農業

従来は動物や植物そのものを育てることで得ていた資源を、細胞や微生物を培養することで食品やその原料を生産しようとする技術分野。動物由来細胞を直接培養する、微生物に目的タンパク質を作らせる2つのタイプに分けられる。食品生産の他、革製品や化粧品原料等、様々な動物由来資源の生産に応用が可能とされる。細胞性食品（いわゆる「培養肉」や「細胞培養食品」）は、細胞農業によって生産された食品を指す。

細胞農業の由来としては、国際的に"Cellular Agriculture"という用語が普及しており、その和訳として、使用され始めたものとみられる。

国際的には"Cellular Agriculture"に Agriculture（農業）という単語が入った明確な経緯は定かではないが、最初に培養する細胞をタネに見立て、細胞を栄養のある培養液の中で培養する工程を、タネを肥沃な土の中で栽培（cultivate）する工程に見立てた呼び方である。また、細胞農業分野では、培養した細胞を採取する工程を収穫（harvest）と表現するなど、細胞培養工程をある種の「細胞という食材の生産工程」ととらえていると推察する。

「細胞農業」との記載であると水産物のイメージから離れてしまうが、実際に

は水産物の細胞を使用した細胞性シーフードの開発等も進んでいる。

(吉富愛望アビガイル)